

第5学年学級活動指導案

東広島市立御薗宇小学校 教諭 大山 紀子

- 1 日 時 平成26年12月日(水) 3校時
- 2 学 年 第5学年 男子14人 女子12人 計26人
- 3 題 材 「学校ごっこを成功させよう」

内容 学級活動(2) ア 希望や目標をもって生きる態度の育成

4 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく素直で前向きに行動している児童が多い。学校祭に向けての英語劇の練習においても、全員で協力し合い、より良い表現を目指して練習している。また、高学年として毎朝の登校班や縦割り掃除では1年生に声をかけたり、お世話をしたりするなど、年上としての行動が少しずつ見られてきた。しかし、6年生に任せておけばなんとかなるだろうといった姿も見られ、高学年としての自覚や責任ある行動はまだあまり見られず、自分から積極的に低学年の児童に関わろうとする児童は多くない。

(2) 題材設定の理由

3か月後には6年生が卒業し、自分たちが最高学年となることを目前とした現在、総合的な学習の時間の「みそのうトライアングル」の活動で「学校ごっこ」を行うこととなった。児童は年長児のために、「先生役」となって学校生活を擬似体験させる。この活動を通して、児童は次期最高学年としての自覚を高めていく。事前指導として体験活動「学校ごっこ」を成功させるための学級目標について話し合う。本時は、それを基にした自己の目標を立て、具体的な行動計画を立案させ、行動改善に結び付けていく。事後指導は、実践と評価を繰り返しながら目標の実現を目指していく。このことを通して、体験活動の事前・事後学習が生かされ、有機的なつながりをもつことにより、学びの意味や価値を実感させる連続性のある学習が展開できると考える。

5 指導のねらい

「学校ごっこを成功させよう」というねらいのもと、自己の目標を立てて、活動を成功させようとする意欲を高める。

6 学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

7 活動計画

(1) 事前の活動

活動過程	児童の活動	場面	指導上の留意点	目指す児童の姿 (評価方法)
11/26 12/1	・「学校ごっこ」についての期待や不安についてアンケートを実施する。 ・「学校ごっこ」のスローガンを決める。	朝の会 学級活動	・「楽しみなこと・不安なこと」についてアンケートをする。 ・「学校ごっこ」の目的を考え、共通意識をもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・年長児のために意欲的に活動に取り組もうとしている。(観察)

(2) 本時の指導と児童の活動

	活動の内容	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て 太字 文脈学習の視点を取り入れた活動 【 】 文脈学習の視点	目指す児童の姿 (評価方法)
導入	つかむ 1 アンケートの結果から気付いたことを話し合う。 2 課題を解決するための方法について話し合う。 「学校ごっこ」を成功させるために、自分の目標を決めよう。	◇ 事前の活動で決定したスローガンを提示しておく。 ◇ 「楽しいなこと」や「不安なこと」について話し合う。 ◇ 「不安なこと」「心配なこと」を聞き、解決方法等を考えさせる。	【関心・意欲・態度】 ・ 話合い活動に関心をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。(観察)
展開	見付ける 3 どんな5年生先生になりたいか、「なりたい自分」について考えよう。 ○誰のために ・年長児 ○目的は ・学校のことを知るため。 ・楽しく過ごせるように。 ・学校に慣れるため。 ○どんな姿を目指すのか ・喜んでいる姿 ・仲良くなった姿 ・笑顔 決める 4 自分の目標をグループで発表し合う。	◇ 自分たちが年長児だった時の「みそとら」の画像を見て、「なりたい自分」について考えさせる。 ◇ 「学校ごっこ」の目的と、その活動を通して「なりたい自分」の姿について考え、自己の目標を決定させる。 【学習目的とのつながり】 ◆ 自分が年長児だったら具体的にどんなことをして欲しいかについて、考えさせる。	【思考・判断・実践】 ・ 自分にあった、よりよい解決方法などについて考え、判断している。(観察・ワークシート)
終末	5 本時を振り返り、今後の行動計画を立て、行動改善へつなげる。	◇ 自己の目標を基にワークシートに記入させ、今後は定期的に振り返りをさせ、実践意欲の継続化を図る。	【関心・意欲・態度】 ・ 学んだことを今後の自分の行動に生かそうとしている。(観察・自己評価カード)

(3) 事後の活動

活動過程	児童の活動	場面	指導上の留意点	目指す児童の姿 (評価方法)
12/10 12/18	・個人の目標について振り返り、カードに記入したり、次のめあてを設定したりする。	帰りの会	・振り返る時間を確保し、自信をもたせたり、より良い方法について考えさせたりする。	【関心・意欲・態度】 ・ 自分の生活の充実と向上にむけて、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。 (振り返りカード)

8 板書計画

12/3

めあて

スローガン

学校ごっこを成功させるために自分の目標を決めよう

アンケート結果より

楽しみなこと

不安なこと

☆みんな楽しみなことや不安なことがあるんだな。

自分だけじゃないな。

自分たちが年長児だ
った時のみそトラの
画像

- 誰のために
- 目的は
- どんな姿をめざすのか

自分の目標を立てよう

どんな目標が考えられるかな

自分の目標を決めて、カードに書こう。

ふり返しカード

5年1組 氏名 ()

自分のめあて

めあてに向かってがんばることができたかな？

○…がんばれた △…がんばれなかった

日 ()	日 ()	日 ()	日 ()	日 ()

ふり返っての感想（1週目）

友だちより

先生より

おうちの人から

2週目

自分のめあて（めあてを変える人は書きましょう）

めあてに向かってがんばることができたかな？

○…がんばれた △…がんばれなかった

日 ()	日 ()	日 ()	日 ()	日 ()

ふり返っての感想（2週目）

友だちより

先生より

おうちの人から

体験活動と事前・事後学習に文脈学習の視点を取り入れた授業の概要

学習の流れ	予定	学習内容	文脈学習の視点	ねらい	キャリア・ カウンセリング
事前学習	12/3 (水)	特別活動 学級活動(2)ア 希望や目標をもって生 きる態度の育成 テーマ「学校ごっこを成 功させよう」	視点(a) 学習目的とのつながり ・「学校ごっこ」の目的と、その活動を通して 「なりたい自分」の姿について考え、自己の 目標を決定させる。	「学校ごっこを成功させよう」とい うねらいの基、自己の目標を立てて、 活動を成功させようとする意欲を高 める。	↑ ・つながりシートの一部に「先生へ」という欄を設け、教師へ伝えたいことを書かせるようにする。教師はこれを受けてメッセージを返し、併せて個別の対話の契機とする。 ・対話による言語的コミュニケーションとして、アドラーの勇気付けの言葉かけを行い、8つの具体例を基に援用する。
	12/11 (木)	道徳 働くことの意義4-(4) 資料「母の仕事」 出典 日本文教出版 「生きる力」6)	視点(c) 日常生活とのつながり ・これから人のためにやってみたいことや、日 常生活の中で役に立ちたいことを考える。	つらい仕事だったらやめればいいの にと考えていた「ひろ子」が、体が 疲れていても意欲的に働き、自信と 誇りをもって仕事の意義やすばらし さを語る母の姿を通して、働くこと の意義を理解し、社会に奉仕するこ との喜びを知って社会のために役立 つことをしようとする心情を育てる。	
体験活動	12/18 (木)	総合的な学習の時間 「学校ごっこをしよう」	視点(b) 過去の学習や教科間とのつながり ・年長児の立場に立って具体的に例を提示しな がら分かりやすく説明する。 ・相手の立場に立った話し方(話すスピード、間 の取り方、表情等)を意識する。	幼児との交流会の企画、準備、実施の 一連の活動を通して、課題を設定す る力や解決する力、協働して学ぶ力 を育てる。	↓ アドラー心理学による勇 気付けの言葉かけ ①過程を重視する ②加点主義 ③貢献に注目する ④失敗を受け入れる ⑤相手に判断を委ねる ⑥肯定的に表現する ⑦聴き上手 ⑧人格を重視する
事後学習	12/19 (金)	特別活動 学級活動 テーマ「一年後の自分へ の手紙を書こう」	視点(d) 将来の役割とのつながり ・「なりたい自分」を具体的にイメージし、行 動改善について自分なりの考えをもって「一 年後の自分」への手紙を書く。	「一年後の自分」へ手紙を書く事 を通して、「なりたい自分」のイメージ を具体的にもち、行動改善について 考えることができる。	